

別紙

福祉サービス第三者評価の結果

1 評価機関

名称： コスモプランニング有限会社	所在地： 長野市松岡1丁目35番5号
評価実施期間： 令和4年8月2日から令和5年2月1日まで	
評価調査者（評価調査者養成研修修了者番号を記載） B18014、B18015、050482	

2 福祉サービス事業者情報（令和4年11月現在）

事業所名： (施設名) 長野市象山保育園	種別： 保育所	
代表者氏名： (管理者氏名) 市長 荻原 健司 保育・幼稚園課長 丸山 隆文	定員（利用人数）： 95名（81名）	
設置主体： 長野市 経営主体： 長野市	開設（指定）年月日： 昭和45年9月1日	
所在地：〒381-1231 長野県長野市松代町松代1421番地3		
電話番号： 026-278-2085	FAX番号： 026-278-2085	
電子メールアドレス： —		
ホームページアドレス： http://www.city.nagano.nagano.jp/		
職員数	常勤職員： 18名 非常勤職員： 19名	
専門職員	(専門職の名称) 名	
	・園長 1名 ・保育主任 1名	・調理員 3名 ・バス運転手 2名
	・保育士 27名 ・事務員 1名	・バス添乗員 2名
施設・設備 の概要	(設備等)	(屋外遊具)
	・乳児室・ほふく室 … 1室 ・図書室（保育室） … 1室 ・保育室 … 3室 ・遊戯室 … 1室 ・調理室 … 1室 ・事務室 … 1室 ・便所 … 2室	・鉄棒 ・ジャングルジム

3 理念・基本方針

○長野市保育理念(保育所型認定こども園を含む)

子どもの健やかな心身の発達を図り、望ましい未来を作り出す力の基礎を培う。

○児童福祉法に基づき、保育を必要とする子どもを保育することを目的とする。

○子どもの最善の利益を考慮し、その福祉を積極的に増進する。

○長野市保育基本方針

- 安全で安心できる生活の場を整え、子どもが自己を十分に発揮できるようにします。
- 専門の資格を持った職員が養護と教育を一体的に行い、子どもの発達を援助します。
- 保護者の気持ちを受け止め、共に子育てをします。
- 家庭と連携を図りながら、子育ての悩みや相談に応じ助言するなど、地域における子育て支援の拠点として、社会的役割を果たします。
- 保育を実践するにあたっては、「全体的な計画」に基づき、一貫性を持って子どもの実態に応じた柔軟な保育を展開します。

○長野市象山保育園 保育目標

- 見たい 聞きたい 話したい やってみたい
何でも食べて元気な象山の子ども達

4 福祉サービス事業者の特徴的な取り組み

当象山保育園は長野市が直接運営する28園(内休園2園)と2認定園のうちの1つで、昭和45年9月に開設されて以降、長野市が運営している。

当園の前身は旧松代町時代の昭和26年4月に開設された田町保育園と昭和28年5月に開設された寺町保育園の2つの園で、昭和41年7月、その年の10月の長野市、篠ノ井市、松代町など2市3町3ヶ村の昭和の大合併前に田町保育園が改築され、昭和45年9月には寺町保育園が廃止され象山保育園として現在地に開設され、その後、平成9年4月に象山保育園と田町保育園が統廃合され象山保育園となり、平成10年3月には新園舎が現在地に竣工した。

当園のある松代は長野市の東南に位置し、真田十万石の旧跡と寺社仏閣、地震観測所、松代大本営予定地跡、佐久間象山記念館などの史跡や文化財などが豊富にあり、音楽家の海沼実、草川信、女優松井須磨子の生誕の地でもあり、街中には童謡の歌碑があり、朝・昼・夕には童謡が流れている。

当園はその松代市街地南の住宅地にあり、周辺には象山神社や旧横田家住宅、山寺常山邸などがあり、象山山(ぞうざんやま)や公園などの自然環境にも恵まれており、子ども達の園外保育の選択肢も幅広く、四季を問わず天気の良い日には散歩や遊びに出掛けている。

そうした中、平成28年10月には「信州の豊かな自然環境と多様な地域資源を活用した、屋外を中心とする様々な体験活動を積極的に「信州型自然保育(信州やまほいく)」の団体として普及型の認定を受け、令和3年には5年毎の更新を行い現在2年目に入っている。当園のお散歩マップ(自然保育マップ)には松代城跡や象山神社、公園、川、小学校、宅老所、認知症高齢者グループホームなどがマークされイラストや写真なども貼られており、四季折々の自然や動植物に親しみ、また、地域の人々と挨拶を交わし様々な自然体験や社会体験、生活体験をしている。また、新型コロナ禍の中、予防対策を充分にしながら、地域の人々との世代間交流が継続して行われており、地域のボランティアによる絵本の読み聞かせや紙芝居があり、また、GB会(卒園児祖父母有志の会)の方々にも子ども達と一緒にさつま芋の苗を植えたり、草取り、芋堀り、焼き芋会などの手伝いなどをしていただいている。

現在、当園には0歳児6名のひよこ組、1歳児10名のあひる組、2歳児16名のりす組、3歳児18名のうさぎ組、4歳児14名のぱんだ組、5歳児17名のきりん組の6つのクラスがあり、それぞれの子どもの発達段階に合わせて作成された令和4年度の全体的な計画の下、園の目標、「見たい 聞きたい 話したい やってみたい 何でも食べて元気な象山の子ども達」に沿い、一人ひとりの発達過程を踏まえ、健康、人間関係、環境、言葉、表現などの教育5領域を意識した保育を組み立て、子ども達が保育所において、安定した生活を送り、充実した活動ができるようにしている。また、保育を通じて育みたい資質・能力を、子どもの生活する姿から捉え、子ども同士の自発的な遊びが深まり、総合的な心身の発達へとつながるようにしている。

当園では保護者の仕事と子育ての両立等を応援するため、そのニーズに合わせて多様なサービスを提供しており、時間外保育や一時預かり、親子交流体験、おひさま広場(園開放、育児相談)等を実施している。当園は16:30以降のクラス合同で行う保育を行っている子どもは30~40名前後となっている。また、一時預かりについても保護者の就労・保護者の疾病・保護者の育児に伴う心理的、

肉体的負担の解消等による預かり保育を行うサービスで、当園でも希望に応じて支援することができるようになっている。親子交流体験は、特別な配慮が必要な未就園児が園児との遊びや給食を通して子ども同士の交流を行い心身の発達を促すという内容になっている。おひさま広場は未就園児と保護者対象に園開放及び子育て相談を行うサービスで新型コロナ禍のため、保護者に事前連絡をしていただき受け入れをしている。

当園では「長野市乳幼児期の教育・保育の指針」の目標とする「かがやく笑顔で 元気に遊ぶ しのなきッズ」及び「第二期長野市子ども・子育て支援事業計画」に沿いビジョンを明確にしており、2021年度から2023年度までの中期計画として、「2021年信州やまほいく更新」「2022年福祉サービス第三者外部評価の受審」「長野市運動プログラム・運動と遊びのプログラム充実」「長野市公立保育園公開保育 令和3年度実施」「長野市幼保小連携接続期プログラム 令和2年度公開保育実施」などを掲げ職員が子ども達の健やかな生活と望ましい未来をつくり出す力の基礎をチームとして培おうとしている。また、当園の今年度の事業計画には重点課題として「保育内容の充実」「保護者支援」、「安全・安心な保育の実施」「地域の子育て支援」など6つが掲げられており、職員は子ども達のより良い成長と生活をサポートするため、そして最良の保育を提供するために新型コロナ禍の中ではあるがオンライン研修なども含めた保育園内外の研修等を受講し、それぞれの職務内容に応じた専門性を高めつつ、必要な知識及び技術の修得、維持及び向上に努めている。

5 第三者評価の受審状況

受審回数（前回の受審時期）	今年が2回目（平成30年度）
---------------	----------------

6 評価結果総評（利用者調査結果を含む。）

◇特に良いと思う点

1) 多様な自然や地域の環境を生かした保育

自然界に起こるさまざまな現象や創造物には、人間界とは違う、美しさや力強さがあるといわれている。そのような自然とふれあうことで、得られる発見や驚きといった心を動かす経験の積み重ねによって、子どもの感性はより豊かなものへと育まれていくのではないかと思われる。保育者は、日々の保育のなかで、身近な自然の創造物や変化を子どもに気づかせたり、あるいは子どもが自然に対して、より興味をもてるようになるきっかけを作ったりする取り組みを心がけることが大切であるともいわれている。

当園では「信州型自然保育（信州やまほいく）」の認定を受けており、当園の2021年度から2023年度までの中期計画の中でも「2021年信州やまほいく更新（認定期間：2021年から2026年）」として掲げ、その充実のため山、林、川、田畑といった周りの自然のフィールドを活かし積極的に取り組んでいる。また、今年度の事業計画の中の重点課題の「保育内容の充実」として「自然を生かした保育を行う」とし、実践している。

当園の南西側には象山山（ぞうざんやま）があり、また、西側にも妻女山などの里山が連なり、その裾野には畑が広がっている。当園ではクラスを越えた異年齢で出かける機会もあり、史跡の街ならではの文化財や自然環境の中で、園児たちは伸び伸びと交流を深めながら過ごしている。園の散歩マップがあり、西側にある象山神社近くには小川が流れ、また、松代城跡や青垣公園、稲荷神社、旧武家屋敷なども近くにあり、毎月、自然と関わる活動計画を立て保育に取り入れている。

豊かな自然の中へ散歩に出かける機会も多く、土手、神社、公園、川などを巡っている。春にはさつま芋の苗をGB会（卒園児祖父母有志の会）の指導を受けながら植え、夏にはその畑の草取りをしたり川で沢ガニ・ザリガニ・エビなどを捕まえ飼育も行い、秋にはどんぐり・落ち葉・枝などを採取し、それを園での制作に活かしたり、また、さつま芋堀りなどを行っている。

更に、畑やプランターでジャガイモ、キュウリ、ナス、トマトなどの野菜も栽培し、成長の観察や収穫を体験し、給食へも取り入れ、「食」への関心も高めている。

「長野市乳幼児期の教育・保育の指針」の基本方針の「取組の方向性I-1 自然環境を活かした体験活動の充実」でも「命の大切さ、ものの美しさに気付く豊かな感性を育む」、「見て、触れてなど、全身の感覚を使って体験ができる環境を整える」、「信州型自然保育認定園を増やす」の3つを掲げており、当園の職員は、子ども達が自然の中で「土に関わる活動」「草・花・木に

関わる活動」「水に関わる活動」「空・天気に関わる活動」「生き物に関わる活動」「火に関わる活動」「人・地域に関わる活動」等を通じ、たくさん体を動かして遊び、多くの発見や体験をし、子どもが本来持っている自ら学び成長する力を十分に発揮できるようにしている。

2) 地域の人々との交流

「長野市乳幼児期の教育・保育の指針」の「基本方針Ⅳ『育ちを支える』家庭・地域との連携」として「取組の方向性Ⅳ-2 地域交流活動の充実」を掲げ、「地域の文化に触れ、地域に親しみや愛着が持てるように地域交流を指導計画に位置づけ、活動を推進」・「地域住民が教育・保育活動に参加することで、地域とともに子育て支援を行う教育・保育施設を目指す」と明文化している。

当園のある場所の旧町名は代官町、馬場町で、古くからの武家屋敷など歴史ある文化が多く残り地域の方々同士の交流も多く、子育てにも関心があり協力的である。さつま芋の栽培ではGB会（卒園児祖父母有志の会）が中心となり、土づくり、苗植え、収穫までの協力を得て沢山のさつま芋（今年は100本）を育てている。焼き芋会では子ども達と一緒に収穫を喜び合い、楽しく味わっている。また、日ごろお世話になっている地域の方々（真田宝物館、郵便局など）に焼き芋を届け、感謝の意を伝えている。

園の行事や活動時にもお店（買い物ごっこ）や郵便局（サンタさんへの手紙）など、地域の人々から快く協力を得ている。新型コロナ禍の中、地区の行事への参加は自粛せざるを得なくなっているが、「松代総合美術展」「JAの絵展示」などの地域のイベントに年長児が絵だけではなく枝でフレームを作って展示している。また、今年度は地域おこし協力隊員である保護者のご厚意を受け年長児がブドウの栽培と収穫に関わり貴重な体験をしている。また、世代間交流として宅老所や認知症高齢者グループホームなどのお年寄りとおふれあい、駐車場で歌やリズム遊びなどを披露している。当園としておひさま広場（園開放・育児相談）なども行い、中学生の職場体験、実習生の受け入れなども実施されており、地元のボランティアや老人会の会員による絵本の読み聞かせ・紙芝居なども行われている。また、小学校との交流をズームで行うなど工夫をして地域の人々との交流を行っている。

当園では、家族を大切にしようとする気持ちを育てるとともに、地域の身近な人と触れ合う中で人とのさまざまな関わり方に気づき、相手の気持ちを考えて関わり、自分が役に立つ喜びを感じ、地域にとけ込み地域に育てられ、地域に親しみを持てるようにしている。また、保育園内外のさまざまな環境に関わる中で、遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報に基づき判断したり、情報を伝え合ったり、公共施設を活用したり行事に参加することで社会とのつながりなどを意識できるようにしている。

3) 子ども達が活動しやすい環境の整備

長野市公立各保育園で年間通して取り組んでいる「遊びを通して育む乳幼児の学び」がテーマのレポートの作成について、当園では令和3年度の研究「3歳児の『やってみよう』を引き出す環境や遊び～発達から考える～」を発展させ令和4年度は「子どもの遊びの環境を考える」を掲げている。その研究の目的を「子ども達が遊び込める、子ども達が自ら遊びを考えて広げ、次の遊びの継続となるにはどのような室内環境が必要なのか?」とし、子どもが主体的に遊べる環境の検証に取り組んでいる。

未満児の園児数が増え、0・1歳児は1室を手作りパーティションで区切り、年齢別に発達に合わせた保育を行ない、安全で適切な対応ができるように配慮し環境を整えている。2歳児は絵本の部屋を保育室として利用している。トイレや水道が部屋にないので、おむつ交換や着替えなどは、多目的トイレにマットを敷き、衝立を手作りしプライバシーに配慮した場所を確保し、安心できる環境を整えている。また、行動が活発になるこの時期、狭い室内での怪我などが心配されるので、室内遊びはままごと、お店屋さんごっこ、お絵かきなど、落ち着いて遊べるコーナーを作っている。更に、興味のある活動を取り入れ室内の必要のない物を片付けるなど、安全で集中できる環境を整え、遊戯室や戸外では十分に体を動かして遊ぶことができるように配慮している。園内の廊下には制作物や植物が置かれ、絵本などいつでも手にとって見ることができるよう整え、室内の刺激の精選を行い、必要のない物、使用頻度の少ない玩具などを片付け、すっきりした室内で子ども達が興味・関心を持ち集中して遊び込める環境作りに園全体で取り組めるようにしている。

保育園では、家庭で体験できないような集団生活ならではの、恵まれた環境が用意されている。当園では体系的にコーナーに分けられた保育室で、子ども達が集中して遊べるように職員が

選べる環境を整え、子ども達の遊びに寄り添い見守り、子どもが遊びの中で自然に片づけが身につくような働きかけをしている。

子ども達の自主的な選択のもとで活動している。自分で選択する力、「選択力」は人生においてとても大切なことであるといわれ「選択力」は大人になったからといって自然に身につくものではないともいわれ、子どもの頃から少しずつ物事を自分で決めていく体験から培われていくという。その原体験は乳幼児期からでも遊びを通して行うことができ、当園では自分で選んだ遊びが楽しかった、という成功体験をたくさん積めるように遊びを自由に選択できるような環境を整備し、令和4年度のレポート「子どもの遊びの環境を考える」の考察として「環境の充実により、実体験、追体験、生活体験からの遊びの広がりが実証できた」と結んでいる。

4)働きやすい職場づくり

保育の内容を充実させるためには、保育所として、職員が常に仕事に対して意欲的にのぞめるような環境を整えること＝働きやすい職場づくりに取り組むことが求められているという。

また、「働きやすい職場」とは、「職員の心身の健康と安全の確保」「ワークライフバランス（仕事と生活の両立）に配慮した職場環境づくりがなされている職場だといわれている。

職員の心身の健康と安全の確保については、労働災害防止策（メンタルヘルス、ケガ・腰痛防止策、その他労働災害への対応）、セクシャルハラスメントやパワーハラスメントの防止策と対応策、希望があれば職員が相談できるように、カウンセラーや専門家を確保する等の取組があるとされている。また、健康維持の取組としては、たとえば、より充実した健康診断を実施する、全職員に予防接種を励行する、健康上の相談窓口を設置するなどが挙げられる。

保育者が集団としてまとまるには、保育に対する共通の思いを持つことが大切で、それにはまず、保育者間で「自分たちは同じ目標に向かっていく仲間同士である」という相互理解が必要不可欠であるといわれ、園で定めた同じ目標や子どもの姿に向けて保育をしていると理解しているか、子どもの表情や行動に対しての気づきや評価する力、感覚、つまり保育観が共有できているかを再確認することも必要であるといわれている。

当園では保育観の共有を深めていくために、会議などで保育内容について検討し、意見の相違がある場合はしっかり話し合うようにしている。また、行事の反省会や期末の会議などでも振り返りを丁寧に行い、保育者間で保育観の共有を積み重ねている。

そうした中で、職員同士が気持ち良く仕事ができる環境づくりとして行動規範にも通じる「象山保育園大人の憲章」を全職員の総意として作成し、「みんなの意見を最後まで聞いてみよう」「思いやりの気持ちを持って話そう」「みんなの良いところを見つけ合おう」3つを掲げ「気持ちよく仕事ができる環境づくり」に共同して前向きに業務に取り組んでいる。

複数の保育者が共同で子どもの集団を保育していくことは、複数の視点での子どもや保育に対する理解が可能となり、保育者の連携がうまくいくことで好循環につながるものと思われる。当園では職員一人ひとりが責任をもって保育に取り組み、子ども達の思いやりの心を育むべく、その手本として職員がお互いを思いやりながら働きやすい職場づくりに努めている。

◇改善する必要があると思う点

1)業務負担を軽減するための ICT 化入力媒体の更なる拡充

長野市では令和4年から「保育業務支援システム」を本格的に導入し登降園管理や、保護者が園からのお知らせ一斉配信（日常的な連絡、緊急連絡、感染症発生情報等）、身体測定などをスマートフォン、パソコン、タブレット等で見られるようにし、園内向けには帳票作成（指導計画、園日誌、ヒヤリハット・事故報告等）、情報の管理等をパソコン、タブレットなどを使い入力できるようにしている。

保育現場の ICT 化を進めることで、今まで手書きで行っていたおたよりやお知らせなどの発信や年間指導計画・月案・週日案の作成、記録の記入などをパソコン、タブレットを使うことで、作業の効率化に繋げようとしている。

当園では、現状、年齢別のクラスを設け、保育に取り組んでいる。そうした中、「保育業務支援システム」の入力媒体であるタブレットが各クラスに1台しかなく、複数で担任している場合には交替で使うなどの工夫をしているものの事務作業の勤務時間内での業務負担が軽減され、その分の時間を有効活用することにより保育の質の向上が図られているかどうかということとは十分ではな

いように思われる。当園だけでなく、他の公立保育園でも同じような状況があるのではないかと考えられる。

保育士の業務負担の軽減を図るため、また、「保育業務支援システム」の更なる効率化を進めるために可能であれば補助金等を活用し、利用する子どもの人数や職員の人員配置なども考慮しつつ、パソコン、タブレット等の増設を図り、真の意味での職員の負担軽減に繋がられていくことを期待したい。

2) 特別な配慮が必要な子どもを支援するための更なる人員配置

いわゆる「気になる子」や特別な配慮が必要な子どもが以前より増えてきているといわれている。乳幼児期・学童期における「ちょっと気になる子」の発見はもとより、地域において支援を必要している方を早期に見つけ出し、早期の支援に繋げていくことが必要であるといわれ、正しい理解と支援の正しい知識・技術が広がっていくことが何よりも大切であるともいわれている。

また、保育園は全ての子ども達が、日々の生活や遊びを通して共に育ち合う場であるといわれている。そのため、一人ひとりの子どもが安心して生活できる保育環境となるよう、障がいや様々な発達上の課題など、状況に応じて適切に配慮する必要があるともいわれている。当園では子ども達が共に過ごす経験こそ将来的に障がいの有無等によって分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重し合いながら共生するインクルーシブな社会の基盤となると考え、個に応じた関わりと集団の中の一員としての関わりの両面を大切にしながら、職員相互の連携の下、組織的かつ計画的に保育を展開している。

「長野市乳幼児期の教育・保育の指針」の「基本方針Ⅲ 『育ちを守る』教育・保育環境の充実」を掲げ、「取組の方向性Ⅲ-2 特別に配慮が必要な子どもへの支援の充実」として「自立や社会参加に向けて、一人一人の教育的ニーズを把握し、個別の指導計画を作成して教育・保育」とし、また、「様々な機関が連携・協力し、子どもの持つ力を高め、主体的に楽しく充実した園生活を送れるよう、子ども一人一人の特性に応じた適切な支援や指導」としており、当園でも特別な配慮が必要な子どもについて発達過程や状態を把握し、具体的な保育内容や情報等を全体で共有し、個別支援計画を作成し、支援目標を立て、長期的見通しを持ちスモールステップで援助を行い、子どもが自己発揮出来るように支援している。

そうした中、職員はそれらを実践し特別な配慮が必要な子どもに接しているが、時として複数の保育士で対応せざるを得ないことがあり、保育士の負担が大きくなっているのではないかとと思われる。今後、新型コロナ禍での対策の意味も含め、手が足りていないクラスの保育補助や園全体の業務のサポートを行うなど、大切な役割を担い臨機応変に対応できるフリーの立場の保育士を配置し、特別な配慮が必要な子どもが安心して園での生活ができるような体制を更に整備されていくことを期待したい。

7 事業評価の結果（詳細）と講評

共通評価項目の評価対象Ⅰ福祉サービスの基本方針と組織及び評価対象Ⅱ組織の運営管理、Ⅲ適切な福祉サービスの実施（別添1）並びに内容評価項目の評価対象A（別添2）

8 利用者調査の結果

アンケート方式の場合（別添3-1）

9 第三者評価結果に対する福祉サービス事業者のコメント

(令和 5年 2月 1日記載)

2回目の第三者評価受審に向け、長野市の保育理念や基本方針を基に、園目標や全体的な計画に沿った保育を進め、また各種マニュアルの確認等を行い保育の内容、質の向上に繋げました。コロナ禍となって3年目となり自粛せざるを得ない行事等もありましたが、子どもと保護者、また、地域との交流を通して子どもの成長を育んできました。

評価結果総評で特に良い点として挙げられた①自然や地域の環境を生かした保育、②地域の人々との交流、③子ども達が活動しやすい環境の整備に関しましては園外保育に出ることで知的好奇心を高めたり、地域の方との温かな触れ合いを通して子どもの発達を促してきました。また、④働きやすい職場作りに関しましては「大人の憲章」を作成し職員間で連携を図ることで、意欲的に保育に取り組めるようにと力を注ぐことを継続し、今後もさらなる向上に取り組んでまいります。

また、改善する必要がある点として挙げられた①ICT化入力媒体の更なる拡充②配慮が必要な子どもを支援するための人員配置に関しましては保育・幼稚園課と連携し、更なる拡充に努めていきたいと思っております。

最後に、コスモプランニングの皆様には、園の良さや改善点を具体的にお示しいただいたことに感謝申し上げます。今後も子ども達がより良い環境の中で様々な体験ができるよう、保育の充実に努めてまいります。